

令和6年度施設関係者評価実施報告書

社会福祉法人宝山寺福祉事業団
極楽坊あすかこども園

実施日:令和7年3月19日(火)

場所:極楽坊あすかこども園なんでも室

施設関係者評価委員:極楽坊あすかこども園愛護会 会長・副会長 児童発達支援いっぽ センター長

施設側参加者:極楽坊あすかこども園 園長・副園長 書記:極楽坊あすかこども園 事務

1. 園の教育・保育目標

やさしい心と健やかな身体を育てる。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

(重点項目)

1. 「主体性を育む保育」について、共通理解を図るとともに、行事等を含めた保育のあり方を再検討する。
2. 研修や講習会に積極的に参加し、得られた知識や技術を職員間で共有し、教育・保育の質向上を図る。
3. 家庭や地域との連携を図りながら園児の保護者支援や地域の子育て家庭の支援を行う。
4. ICT の活用など、間接的業務の効率化を図り、保育の更なる充実・保護者の利便性向上・働きやすい職場環境を目指す。

3. 評価項目の評価及び委員の意見

評価項目	自己評価	委員の意見
保育・教育目標について	・主体性を育む保育を心がけ、行事を行う上でその都度「主体性とは」と念頭に置いて計画した。 ・研修(オンライン等を活用)を通じて、子どもたちに生かせる保育を学びあった。	・職員が研修を受講しやすいか環境か委員から質問があり、オンライン等を活用して、できるだけ研修を受講しやすいようにしている取り組みを報告した。

	・支援の必要な子どもたちについても、発達に合わせた生活を考えたり、目標設定を行った。	
保育・教育について	・乳児クラスにおいては、自由に好きな遊びを選択できる環境設定を工夫したり、感触遊びを多く取り入れ、興味のある素材や用具を用いて保育ができた。 ・3歳以上児について、体育あそびや畑作りなど、環境を意識した保育に取り組んだ。また、成長段階に合わせた保育室の玩具を整え、実際に使用してしながら、改善を重ねた。	・昨年度から課外授業の体操教室やサッカー教室が実施されていることは保護者として有難い。保護者への周知をもっとしてもらいたい。
食育	・家庭的な雰囲気作りや言葉掛けを工夫し、実際の食材に触れたり、匂いを嗅いだりして興味を持ち、食べる意欲に繋がるようにした。 ・一人一人の食事量や時間等について配慮し、食べる意欲が持てるように意識した。 ・アレルギーについても管理栄養士や担任を含めた連携を取り、適切な対応が取れるようにした。 ・園内の畑での栽培活動を通じて、日々の保育の中で観察したり、収穫物を給食に提供するなどして、関心を深められるようにした。	・可能な範囲で給食メニューのレシピを提供してもらえると助かる。家では食べない食材でもこども園では食べるものもある。 ・給食ではいろいろな食材を使って、匂を感じられるメニューを提供している。家庭では限られた種類の食材を使用することが多いため、給食は様々な食材に触れるいい機会となっている。 ・いっぽも可能な限り食育に参加しており、保護者からも好評である。
日時程	・室内、室外で遊ぶことを子どもたちが選べるように機会を作った。	特段の意見・指摘なし。
行事	・参観は、保護者参加型とした。 ・行事の計画や実施後の振り返りは、担当の係が中心となって行った。保護者の感想や意見についても、反省会の中で共有した。・行事は愛護会とも連携して、協力して進めてきた。	・参観が親子のふれあい遊びなど、親子が一緒に体験する形式であることについて、好評であった。
経営・組織	・保育教諭の配置人数に余裕はなかったが、臨機応変に対応した。	特段の意見・指摘なし。

	・会議での共有事項はまとめてから伝えるようにし、時間短縮に繋がった。 ・年齢に応じて、子どもたちの成長に合わせて無理なく保育を進めることができた。 ・たてわり活動では、異年齢児と一緒に過ごし、関わりをもつ機会を作り、お互いに様々な経験ができるようにした。 ・感染症対策研修を園内で行い、おう吐処理が迅速にできるように準備している。 ・手洗い、うがいなど、子どもたち自身の感染予防が習慣化するように努めた。 ・避難訓練を通じて、素早く避難ができるように子どもたちにも伝えている。	
情報	・個人情報を含む書類は、鍵のかかる書棚に保管している。 ・公文書の収受に関しては事務室で管理している。	特段の意見・指摘なし。
施設・設備	・遊具の安全確認は、使用前に確認するようにしている。 ・不審者対応訓練については、奈良署から指導に来てもらい、対応マニュアルを作成した。 ・掲示板は保護者の方に見てもらいやすいよう、写真を活用するなどして見やすい掲示を工夫した。	特段の意見・指摘なし。
開かれたこども園づくり	・交流する施設のことを子どもたちにわかりやすく伝えるようにした。 ・飛鳥小学校の校長先生による出張授業を青組を対象に行った。 ・奈良女子大学附属中等教育学校の生徒との交流の機会ができた。 ・地域の方によるおはなしの会を行っている。	・飛鳥小学校の出張授業は今年度初めて実施する取り組み。4月に小学校入学を迎える5歳児とその保護者向けに、3月初めに飛鳥小学校校長に来園いただき、「小学校はこんなところ」を説明していただいた。来年度以降も続けてほしい。 ・いっぽでこども園の園児を受け入れているが、相互交流に

	・参観時間を自由にはしていないが、参観日には親子で楽しむことができるようにした。 ・子育て支援活動として行っている園庭開放に来ていただいた方には、子育てに関する相談や、入園のための情報提供を行って、入園の参考にしていただいた。 ・子育て支援の参加者との交流活動を設け、在園児とも一緒に遊ぶ機会があった。 ・飛鳥安全ネットワークに参画し、校区内の小学校や地域団体との情報交換を行っている。 ・ホームページでは、園の情報や入園に関する情報提供を行っている。 ・施設関係者評価委員会や、愛護会活動を通じて、意見を反映できるように努めている。	より、こども園での園児の生活への理解が深まり、いっぽでの療育に生かすことができている。 ・飛鳥安全ネットワークについて、現状の主な目的が登降園の見守りのため、協働できる取り組みは少ないが、ネットワーク経由で地域の団体と新たな関係が生まれ、おはなしの会の団体に園へ来ていただくようになった。
--	--	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・「主体性を育む保育」について、園行事を中心として、従来のあり方を見直しながら、一人一人の子どもにとって有意義な経験ができるよう意識して保育を進めた。 ・研修会等について、園内で計画的に実施する定型研修の他、オンライン講義を活用した研修受講を進め、知識や技能の修得に努めることができた。 ・校区の小学校との連携を進め、年長児から小学1年生にかけての「架け橋期」を支えるカリキュラム策定に向けた取り組みが始まった。
--

5. 今後取り組むべき課題

- 保育目標に沿って、環境を通じて主体性を育む保育を実現していくために、日常の保育や行事に一貫性を持った価値観で取り組んでいく。
- 職員の保育の専門性をさらに高めていくため、経験とともに知識や技能を修得していくことを推進する。
- 質の高い保育の提供と、園としての保育・教育機能の向上のため、人材確保に努めるとともに、働きやすい職場環境を整える。